

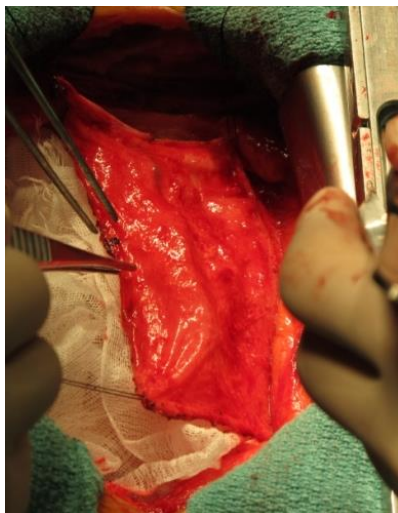
自己心膜による大動脈弁再建術について

人工弁を使わない、自分の心膜を使用して、弁を作る新しい手術です。

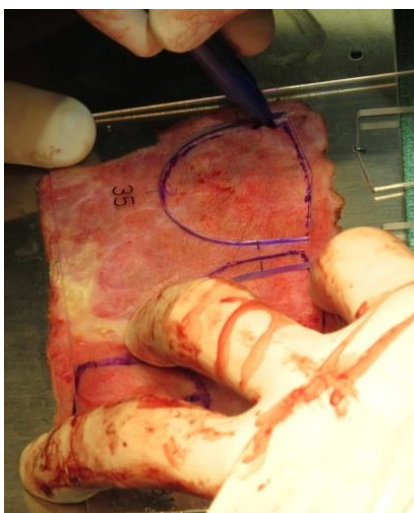
最近の弁膜症に対する治療の進歩は著しいものがあります。ただ根治性を求めるだけでなく、より質の高い手術方法が求められています。自己心膜を使用した大動脈弁形成術が普及し始めています。まだ長期成績についての大規模なデータはありませんが、現在のところ、とても良好な成績が報告されております。

◎ 自己心膜を使用した大動脈弁手術とは

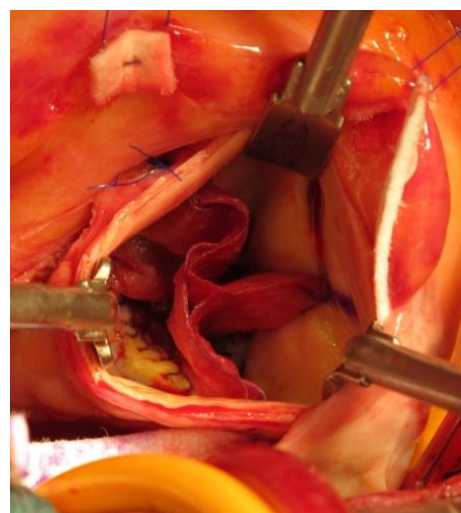
自己心膜をグルタールアルデヒド(強度を上げる溶液)にて処理します。大動脈弁尖切除後、弁輪部を計測し、弁尖を作製し、弁輪に直接縫いつけていきます。



(心膜切除)



(心膜から型どり)



(大動脈弁形成後)

◎ 自己心膜を使用した大動脈弁手術の利点

最大のメリットは「生体との適合性」です。『異物』である人工弁を移植しないので、拒絶反応がなく、脳梗塞などを起こすリスクが低いと考えます。

- ① ワーファリン(血液の塊が出来るのを防ぐ薬)などの抗凝固療法を必要としないこと:術後、抗血小板剤であるバイアスピリンを服用するのみです。ワーファリンは不要になり、QOL(生活の質)は確実に向上します。抗凝固剤使用による出血のリスクも減少させることができます。
- ② 良好な血行動態:大動脈弁前後での低い圧較差が得られます。人工弁置換と違い、有効弁口面積(弁が開いたときの面積)が広く、弁前後での圧較差が従来法より低くスムーズな血流が得られます。限りなく正常な大動脈弁を取り戻せる手術方法といえます。
- ③ 経済性:自己組織を使用しているため、一個約100万円する人工弁を使わない経済的メリットもあります。この手術は、体に優しいだけでなく医療経済にも優しい手術であると考えます。
- ④ 安全性:人工物を使用しないため、感染に対する抵抗性が強い可能性があると考えます。
- ⑤ 快適性:補填物がなく、弁が石灰化する前の静けさが得られます。

◎ 自己心膜を使用した大動脈弁手術の耐久性について

この手術は本邦で開発され、2007年4月から施行されております。長期の耐久性が出始めたところで、現時点での経過は良好であり、世界各地でも施行実績があります。